CISPR SC I規格への新たな変更および提案

Ghery S. Pettit

※訳者注：２０１９年末時点の確定情報を参考に、英文の記事内容に一部、修正を加えた。

CISPR 32 および 35 をよくご存知だろうか？ CISPR 32 の第1版は2012年1月30日に発行され、同年に2件の正誤票1と2（Corrigendum 1&2）が発行されている。第2版は2015年3月31日発行、その後2016年に正誤票1、2019年に修正票1（Amendment 1）が発行されている。CISPR 32 は CISPR 13（音声及びテレビジョン放送受信機並びに関連機器のエミッション）および CISPR 22（情報技術機器のエミッション）の後継である。EU では CISPR 32 が EN 55032 として発行され、EN 55013 および EN 55022 より優先されてきた。今では CISPR 32 は広く受け入れられ、読者諸氏の試験所でも使われているはずである。

同様に、CISPR 35 は2016年8月16日に発行され、CISPR 24（情報技術機器のイミュニティ）の後継となった。最終的には、同様に CISPR 20（音声及びテレビ放送受信機並びに関連機器のイミュニティ）の後継となる予定である。EN 55035 は EU で無線機器指令に適用されているが EMC 指令にはまだ入っていない。本稿では、そのあたりの議論は置いておくが、CISPR 35 については読者諸氏もご承知のことだろう。以前、韓国が CISPR 35 の国内版を採用したが、その規格は CDV（Committee Draft for Vote：投票要委員会原案）に基づいたもので、結局 FDIS（Final Draft International Standard：最終国際規格案）で CISPR 小委員会 I の投票で否決された。ここまでで、既に混乱してきた方もいるだろう。

事態はますます悪くなりそうである。映画「スタートレック」で、新しく改造した宇宙船 Enterprise 号に Dr. Bones McCoy が乗り込み、真新しい医務室を見てブツブツ文句を言いながら立ち去るシーンを思い出してほしい。Dr.McCoy は「私はエンジニアっていうものをよく知っている。何でも変えてしまうのが好きな奴らなんだ!」と言っているので、もちろん「何かが変わった」ことは知っていたはずである。このセリフを書いた人が誰であれ、まわりにエンジニアがいたのは確かだろう。これは真実だからである。我々エンジニアは物事を変えるのは大好きである。それが仕事なのである。

この話を持ち出した理由が、おわかりだろうか？ CISPR 32 と 35 への変更が進行中だからである。心配はご無用、明日すぐに何かが変わるというわけはない。だが CISPR 32 は2019年後半に、35 は2020年に変更される予定である。もちろん、全てが予定どおりなら、ということだが。

では、何が変わるのか？

1. CISPR 32

CISPR 小委員会 I のメンテナンスチーム7（MT7）[1] は、現在 CISPR 32: 2015 の修正について審議している。確認する項目は山ほどあり、項目は6つに分かれている。そのうち5つは昨年（２０１８年）、5つの委員会原案（CD: Committee Draft）として国内委員会（National Committee）に回覧された。国内委員会は CD にコメントするが、投票はしない。MT7 は（直近では2019年2月28日／3月1日ミラノで開催）コメントを確認し、5つのうち3つの CD を次の段階（CDV）に進めた。細分化テーマ 4（Fragment 4）は、測定領域から出る際の AC 電源ケーブルの終端を扱っていて、これは CISPR 小委員会 A の担当である。この件については小委員会 A が適切な CISPR 16 規格を修正するまでは MT 7の出番はないだろうし、この細分化テーマについての CD は2018年には回覧されなかった。細分化テーマ 5 は無線電力伝送（WPT：Wireless Power Transfer）を扱っているが、この件は現時点では時期尚早である。最後に、細分化テーマ 6 は RMS-Average detector を扱っているが、この件もまた、論を進めるには機が熟していない。

では細分化テーマ1、2、3の影響はどうだろうか？ 案件は膨大である。

[注１] メンテナンスチーム7（MT7）：CISPR SC IでWorking Group 2（WG2）が解散され、２０１８年１０月にMT7となった。